

『創生ジャーナル Human and Society』創刊によせて

創生学部 学部長
鳴海 敬倫

新潟大学創生学部は、平成29年4月に開設され、本文（本実践の位置づけと経緯）中にも記されているように、これまでの学士課程教育とは一線を画した新しい教育に取り組んでいる。この教育プログラムを担当する教員もそれぞれ異なる分野の専門性を有し、協働して学生の教育にあたっている。このような新たな教育課程の確立が創生学部の最大のミッションであるが、この学部の特徴にあった研究力の向上も重要な課題である。教員個人のそれぞれの専門性の範疇での研究の伸展も必要であるが、創生学部の教育理念にも繋がる、課題に対し多面的に取り組む解決する事に寄与する研究も、昨今の社会課題の複雑化に鑑みれば不可欠である。境界領域のように、二つ程度の分野が融合した研究領域は、近年多く見られるようになったが、さらに多角的な視点から協働する研究体制の構築が、今後必要となる。このような観点から、創生学部を起点として、多分野融合型の共同研究体制を構築することは、学部の特徴に正に適うものと考えられる。しかし、その取り組みは、前例も少なく段階的に進める必要もある。この度、創生学部の研究推進委員の有志を中心として、このような研究面での協働を意識した研究会が発足し、その成果をまとめるジャーナルが創刊されることは、その第一歩として、大変期待されるものである。この取り組みが、今後、継続的に発展することを祈念し、創刊への驥とさせていただければ幸いである。